

演習問題 1.25

単一の目標変数 t の式 (1.87) の二乗損失関数のベクトル値 \mathbf{t} で表される多変数の場合への、以下の一般化について考える。

$$E[L(\mathbf{t}, \mathbf{y}(\mathbf{x}))] = \int \int \| \mathbf{y}(\mathbf{x}) - \mathbf{t} \|^2 p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{x} d\mathbf{t} \quad \cdots (1.151)$$

変分法によって、この期待損失を最小化する関数 $\mathbf{y}(\mathbf{x})$ が $\mathbf{y}(\mathbf{x}) = \mathbf{E}_t[\mathbf{t} | \mathbf{x}]$ で与えられることを示せ。単一の目標変数 t の場合は、この結果が式 (1.89) に帰着されることを確かめよ。

[期待損失]

$$E[L] = \int \int \{ y(\mathbf{x}) - t \}^2 p(\mathbf{x}, t) d\mathbf{x} dt \quad \cdots (1.87)$$

ここで、 $\{ y(\mathbf{x}) - t \}^2$ は損失関数である。⇒ $E[L]$ を最小化する $y(\mathbf{x})$ を選ぶ。

[回帰関数]

$$y(\mathbf{x}) = \frac{\int t p(\mathbf{x}, t) dt}{p(\mathbf{x})} = \int t p(t | \mathbf{x}) dt = E_t[t | \mathbf{x}] \quad \cdots (1.89)$$

[解]

我々の目標は、 $E[L(\mathbf{t}, \mathbf{y}(\mathbf{x}))]$ を最小化する $\mathbf{y}(\mathbf{x})$ を選ぶことである。このために、式 (1.151) を関数 $\mathbf{y}(\mathbf{x})$ で微分すると、⇒ **変分法**

$$\frac{\delta E[L(\mathbf{t}, \mathbf{y}(\mathbf{x}))]}{\delta \mathbf{y}(\mathbf{x})} = \int 2 (\mathbf{y}(\mathbf{x}) - \mathbf{t}) p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t} = 0$$

より、これを $\mathbf{y}(\mathbf{x})$ について解くと、

$$\int 2 (\mathbf{y}(\mathbf{x}) - \mathbf{t}) p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t} = 0$$

$$\int (\mathbf{y}(\mathbf{x}) - \mathbf{t}) p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t} = 0$$

$$\int \mathbf{y}(\mathbf{x}) p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t} - \int \mathbf{t} p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t} = 0$$

$$\mathbf{y}(\mathbf{x}) \int p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t} - \int \mathbf{t} p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t} = 0$$

$$\mathbf{y}(\mathbf{x}) \int p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t} = \int \mathbf{t} p(\mathbf{x}, \mathbf{t}) d\mathbf{t}$$

$$y(x) = \frac{\int t p(x, t) dt}{\int p(x, t) dt}$$

… ※

と整理できる。ここで、確率の加法定理より、上記の式の分母は、

$$\int p(x, t) dt = p(x)$$

であり、確率の乗法定理より、上記の式の分子は、

$$\int t p(x, t) dt = \int t p(t | x) p(x) dt$$

となるから、最終的に式 ※ は、

$$= \frac{\int t p(t | x) p(x) dt}{p(x)} = \int t p(t | x) dt = E_t[t | x]$$

となる。よって、期待損失を最小化する関数 $y(x)$ が $y(x) = E_t[t | x]$ で与えられることを示せた。また、単一の目標変数 t の場合は、この結果が式 (1.89) に帰着されることがわかる。

【 変分法 】

関数についての微分のことである。通常の変分は、変数に対して微分を行い、変数の値を求めるが、変分法では、関数に関して微分を行い、関数を求める。

【 期待値 】

ある関数 x の確率分布 $p(x)$ の下での平均値は、以下のように表され、

$$E[x] = \int x p(x) dx$$

… (1.34)

のようになる。これを x の期待値と呼ぶ。